

「種山ヶ原」は今！ ②

ウグイス啼き
草原にタンポポ
空高く雲雀鳴き
高原の木々は芽吹く

山々に山桜咲き
里には種蒔桜が咲く
田かき始まり
田んぼの水に空写す

春ゼミが鳴き
カッコーが啼く
お婆さんは畑に畝を作り
豆まきを始める

田んぼの土手には
ワラビが起立し
「皿っこ花っこ」咲く
蛙の合唱だ

牧場に牛戻り
牧草の香り
風に流れ
もうすぐ不如帰が



雲雀の巣が多い 昔はタンポポ群生



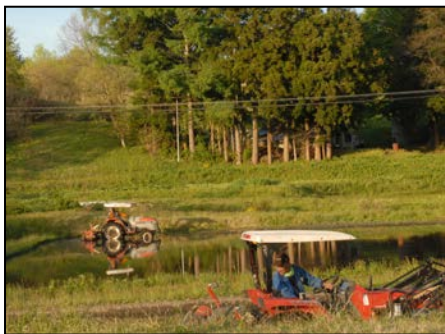
山桜咲く山里



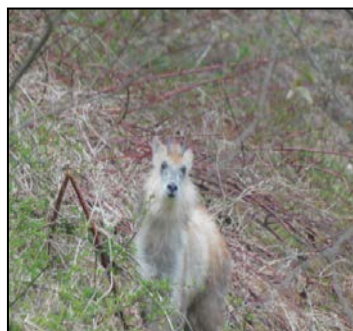
放牧が始まる



東菊咲く物見山野芝原



田かき



カモシカの子ども



五輪塔のカタクリの群生



賢治の森 東菊の群生 野芝の再生 <賢治街道を歩く会の皆さんの努力の成果> 物見山から星座の森を

R3 蓮華つつじと野芝を守る

「昔は『賢治の森』から『物見山』まで野芝だった。馬は蓮華つつじを食べないので、蓮華つつじでいっぱいだった。」と言う。そんな『種山ヶ原』にしたい。しかし、それは叶わぬこと。せめて少しでも元の「種山ヶ原」に戻したいと願っている。



この野芝が物見山まで続いていたという



賢治の森 立石



まさに霧の中の草刈りで「刈った草はどこさ行ったが」



今年は雪害の倒木処理から始まった



皆さん高齢なのに頑張っています。平均年齢78歳かな
右のツツジはムラサキヤシオ





物見山の裏側の牧場 3・11前はタンポポ広場だった。雲雀の牧場でもある。

「星座の森」



今年も放牧が始まった。人を見ると近づいてくる。



星座の森



管理棟 レストラン(現在土日のみ)お風呂(200円)



星座の森入口



金曜日・土曜日は50以上のテントが



コテージ 8棟



オートキャンプ場 ドッグランあり



「賢治の森」 「牧歌」詩碑



「物見山」の蓮華つつじ



子ぎつねが仲間と思ったのか



タヌキが水たまりの水を



風の又三郎も気持ち良さそう



アナグマがひょっこり

ふるさと紀行 木細工・二又地区

800 年前から栄えた歴史ある里

人首丸墓碑周辺を毎年文化財調査委員会が草刈り等をし、守っている。アテルイ、モレ等は地区の民のことを想い降伏したが、人首丸は大森山に立て籠もり、蝦夷の地を平定しようとする朝廷と最後まで戦った若干 15 歳の美少年だったとか。ここはごく最近まで人首村と称し、人首川、人首小学校、人首町等彼の名前が由来している。又、最後の戦いの場大森山周辺には戦いの名残として物見山（種山ヶ原）、精進合、各地から戦いに参戦し、陣取った藩の名前「後藤柴田」等が今尚残っている。尚、大森山はイーハトーヴ風景地「種山ヶ原」と「五輪峠」の中間に位置する。



平家落人伝説の里 平土佐守宗實の館があり、前方後円墳のような墓 説明している方はこの地山大畑地区出身で旧姓平澤釦さん、この地区の方々の苗字は平澤である。現在 3 軒のみになっている。
人首丸 （絵 松淵章氏）



坂上田村麻呂の娘婿田村兼光が人首丸を弔うために建てた麓山神社



麓山神社の奥の院本宮（県指定文化財）

かつての女人禁制の石碑に皆さん“えっ”



麓山神社の周辺

人首小学校中沢分校 今は地区集会所に
三浦幸一区長がきれいに管理している



千田初男氏は自分で製作し、30%程の電力を賄っ
ているようだ。小さな水車は携帯電話充電用？

水車が残る中沢地区 今は活用されている。
夏には屋根に車ユリが咲き、田舎の風情。



中沢地区は、民話の里でもあり「日本のグリム佐々木喜善」に民話を伝えた浅倉利蔵もこの地区
の出身で、喜善は「江刺郡昔話」を刊行する前にこの地を訪れている。

「延命水」ネーミングがよく、各地からおいしい水を求めてやってくる 石碑群 鉄石



戸中金山跡地 ※現在は坑内に入ることには出来ない。扉で閉ざされている。

昭和期まで金山として栄えたと言われている。水力発電で鉱石粉碎機を起動し、坑道からトロツコで鉱石を運び、金を選別する工程まで行われていた。

当時の戸中金山を説明する佐藤昭治さん。今は坑道に入ることにはできないが、彼は坑道に入った貴重な人である。

坑道内の写真



史跡が多い地区で、未だに解明されていない場所もある。「おおなべ・こなべ」もその一つで、石灰岩帯特有のドリーネと思われ、水の溜まらない沼である。山大畑地区には水無川がある。



おおなべ
上に小さな「こなべ」がある



中沢地区の中山間事業で植樹した桜並木
川沿いに見事な桜並木
千田強さんにドローンで撮って頂きました。